CLUSTERPRO® X SingleServerSafe 3.3 for Windows

インストールガイド

2017.10.02 第6版



改版履歴

版数	改版日付	内容
1	2015/02/09	新規作成
2	2015/04/20	内部バージョン 11.31 に対応
3	2016/01/29	内部バージョン 11.32 に対応
4	2016/10/03	内部バージョン 11.33 に対応
5	2017/04/10	内部バージョン 11.34 に対応
6	2017/10/02	内部バージョン 11.35 に対応

© Copyright NEC Corporation 2015. All rights reserved.

免責事項

本書の内容は、予告なしに変更されることがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任をおいません。 また、お客様が期待される効果を得るために、本書に従った導入、使用および使用効果につきましては、 お客様の責任とさせていただきます。

本書に記載されている内容の著作権は、日本電気株式会社に帰属します。本書の内容の一部または全部を日本電気株式会社の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは禁止されています。

商標情報

CLUSTERPRO[®]は日本電気株式会社の登録商標です。

Intel、Pentium、Xeonは、Intel Corporationの登録商標または商標です。

Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Oracle、JavaおよびすべてのJava関連の商標およびロゴは Oracleやその関連会社の 米国およびその他の国における商標または登録商標です。

WebOTX は日本電気株式会社の登録商標です。

Androidは、Google, Inc.の商標または登録商標です。

F5、F5 Networks、BIG-IP、およびiControl は、米国および他の国におけるF5 Networks, Inc. の商標また は登録商標です。

Equalizer は米Coyote Point Systems 社の登録商標です。

本書に記載されたその他の製品名および標語は、各社の商標または登録商標です。

目次

はじめに	vii
対象読者と目的	vii
本書の構成	vii
本書で記述される用語	viii
CLUSTERPRO X SingleServerSafe マニュアル体糸 本書のま記相別	İX
平吉の衣記焼則 最新情報の入手先	xi
第1音 CLUSTERPROX SingleServerSafe について	13
CLUSTERPROX SingleServerSate のソフトウェア構成	
CLUSTERFRUA SIIIgleSelvelSaleの到作現現を確認する SNIMD	
. \/M監視の動作環境	
システム監視及びシステムリソース情報を収集する機能の動作環境	
インストール前のサーバ環境の確認・準備	
1. ネットワーク設定を確認する (必須)	
2. ファイアウォールの設定を確認する (必須)	
3. パワーセービング機能をオフにする (必須)	
第2章 CLUSTERPRO X SingleServerSafeをインストールする	
CLUSTERPRO Serverのインストール	
CLUSTERPRO X SingleServerSafeを新規にインストールするには	
CLUSTERPRO X SingleServerSafeを新規にサイレントモードでインストールするには、	
オフライン版CLUSTERPRO Builderのインストール	
オフライン版CLUSTERPRO Builderをインストールするには	41
Builderを起動する	
オンライン版Builderの起動	
オフライン版Builderの起動	
SNMP 連携機能を手動で設定9 るには	
第3章 CLUSTERPROX SingleServerSafeをバージョンアップ/ア 再インストール/アップグレードする	ンインストール/ 47
CLUSTERPRO X SingleServerSafeのバージョンアップ	
旧バージョンのCLUSTERPRO X SingleServerSafeからバージョンアップするには	
CLUSTERPRO X SingleServerSafeのアンインストール	51
CLUSTERPRO X SingleServerSafeのアンインストール	51
オフライン版CLUSTERPRO Builder のアンインストール	
CLUSTERPRO X SingleServerSafeの再インストール	
CLUSTERPROX SingleServerSafeの再インストール	
CLUSTERPROX へのアップクレート	
第 4 章 最新バージョン情報	57
最新バージョン	
機能強化情報	
第 5 章 補足事項	65
CLUSTERPRO X SingleServerSafeのサービス一覧	

ライセン	スマネージャの使い方	67
ライセン	レス ファイルを指定してライセンスを登録するには	
登録さ	れているライセンスを参照/削除するには	
試用版	ライセンスから正式ライセンスへの移行	
第6章	注意制限事項	71
CLUST	ERPRO X SingleServerSafe インストール関係	
インスト	、ールパス配下のフォルダやファイルについて	
ファイル	レシステムについて	
WebM	anagerについて	
CLUS ⁻	TERPRO Disk Agent サービスについて	
CLUST	ERPRO X SingleServerSafe アップデート時	
アップラ	デートに伴う既定値の変更について	
付録		75
付録 A	トラブルシューティング	77
付録 B	索引	79

はじめに

対象読者と目的

『CLUSTERPRO[®] X SingleServerSafe インストールガイド』は、CLUSTERPRO X SingleServerSafe を 使用したシステムの導入を行うシステムエンジニアと、システム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を 対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe のインストール作業の手順について説明します。

本書の構成

第1章	「CLUSTERPRO X SingleServerSafe について」	:CLUSTERPRO X SingleServerSafe の機能や 要件について説明します。
第2章	「CLUSTERPRO X SingleServerSafe をインストールする」	:CLUSTERPRO X SingleServerSafe をインス トールする手順について説明します。
第3章	「CLUSTERPRO X SingleServerSafe をバージョンアップ/アンインストール/ 再インストール/アップグレードする」	:CLUSTERPRO X SingleServerSafe のバージョ ンアップ、アンインストール、再インストール、 CLUSTERPRO X へのアップグレードの各手順 について説明します。
第4章	「最新バージョン情報」	:CLUSTERPRO X SingleServerSafe の最新情 報について説明します。
第5章	「補足事項」	:CLUSTERPRO X SingleServerSafe のインス トール作業において、参考となる情報について説 明します。
第6章	「注意制限事項」	:本番運用を開始する際に注意事項について説明 します。
付録		
付録 A	「トラブルシューティング」	:インストールや設定関連のトラブルとその解決策 について説明します。

付録 B 「索引」

本書で記述される用語

本書で説明する CLUSTERPRO X SingleServerSafe は、クラスタリングソフトウェアである CLUSTERPRO X との操作性などにおける親和性を高めるために、共通の画面・コマンドを使用しています。 そのため、一部、クラスタとしての用語が使用されています。 以下ように用語の意味を解釈して本書を読み進めてください。

用語	説明
クラスタ、クラスタシステム	CLUSTERPRO X SingleServerSafe を導入した単サーバのシステム
クラスタシャットダウン/リブート	CLUSTERPRO X SingleServerSafe を導入したシステムのシャットダウン、リブート
クラスタリソース	CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用されるリソース
クラスタオブジェクト	CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用される各種リソースのオブ ジェクト
フェイルオーバグループ	CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用されるグループリソース (アプリケーション、サービスなど)をまとめたグループ

CLUSTERPRO X SingleServerSafe マニュアル体系

CLUSTERPRO X SingleServerSafe のマニュアルは、以下の 5 つに分類されます。各ガイドのタイトルと 役割を以下に示します。

『CLUSTERPRO X SingleServerSafe インストールガイド』 (Installation Guide)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用したシステムの導入を行うシステムエンジニアを対象読者とし、 CLUSTERPRO X SingleServerSafe のインストール作業の手順について説明します。

『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 設定ガイド』(Configuration Guide)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用したシステムの導入を行うシステムエンジニアと、システム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の構築作業の手順について説明します。

『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 操作ガイド』(Operation Guide)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用したシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の操作方法について説明します。

『CLUSTERPRO X 統合WebManager 管理者ガイド』 (Integrated WebManager Administrator's Guide)

CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムを CLUSTERPRO 統合 WebManager で管理するシステム管理者、および統合 WebManager の導入を行うシステム エンジニアを対象読者とし、統合 WebManager を使用したクラスタ システム導入時に必須の事項について、実際の手順に則して詳細を説明します。

『CLUSTERPRO X WebManager Mobile 管理者ガイド』 (WebManager Mobile Administrator's Guide)

CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムを CLUSTERPRO WebManager Mobile で管理するシステム管理者、およびWebManager Mobile の導入を行うシステム エンジニアを対象読者とし、WebManager Mobile を使用したクラスタ システム導入時に必須の事項について、実際の手順に則して詳細を説明します。

本書の表記規則

本書では、注意すべき事項、重要な事項および関連情報を以下のように表記します。

注:は、重要ではあるがデータ損失やシステムおよび機器の損傷には関連しない情報を表します。

重要:は、データ損失やシステムおよび機器の損傷を回避するために必要な情報を表します。

関連情報:は、参照先の情報の場所を表します。

また、本書では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
[] 角かっこ	コマンド名の前後 画面に表示される語 (ダイアログ ボックス、メニューなど) の前後	[スタート] をクリックします。 [プロパティ] ダイアログ ボックス
コマンドライ ン中の [] 角かっこ	かっこ内の値の指定が省略可能 であることを示します。	clpstat -s[-h <i>host_name</i>]
モノスペース フォント (courier)	パス名、コマンド ライン、システム からの出力 (メッセージ、プロンプ トなど)、ディレクトリ、ファイル名、 関数、パラメータ	c:¥Program files¥CLUSTERPRO
モノスペース フォント太字 (courier)	ユーザが実際にコマンドプロンプト から入力する値を示します。	以下を入力します。 clpcl -s -a
モノスペース フォント斜体 (courier)	ユーザが有効な値に置き換えて入 カする項目	clpstat -s [-h <i>host_name</i>]

最新情報の入手先

最新の製品情報については、以下の Web サイトを参照してください。

http://jpn.nec.com/clusterpro/

第1章

CLUSTERPRO X SingleServerSafe について

本章では、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の機能や要件について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

•	CLUSTERPRO X SingleServerSafe とは?	14
•	CLUSTERPRO X SingleServerSafe の動作環境を確認する	16
•	インストール前のサーバ環境の確認・準備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31

CLUSTERPRO X SingleServerSafe とは?

CLUSTERPRO X SingleServerSafe は、サーバにセットアップすることで、サーバ上のアプ リケーションやハードウェアの障害を検出し、障害発生時には、アプリケーションの再起動や サーバの再起動を自動的に実行することで、サーバの可用性を向上させる製品です。



CLUSTERPRO X SingleServerSafe のソフトウェア構成

CLUSTERPRO X SingleServerSafe は、以下の 3 つのソフトウェアで構成されています。

CLUSTERPRO Server

CLUSTERPRO X SingleServerSafe のメインモジュールです。サーバにインストールします。

Builder

CLUSTERPRO X SingleServerSafe の構成情報を作成するためのツールです。 WebManager の設定モードとして動作するオンライン版と、管理端末に個別にインス トールするオフライン版があり、オンライン版は WebManager に組み込まれています。 WebManager と同じく、ユーザインターフェースとして Web ブラウザを利用します。

WebManager

CLUSTERPRO X SingleServerSafe の運用管理を行うための管理ツールです。 ユーザインターフェースとして Web ブラウザを利用します。実体は CLUSTERPRO Server に組み込まれているため、インストール作業は不要です。



Builder と WebManager は JavaVM 上で動作する JAVA アプレットです。JRE(Java Runtime Environment) がインストールされているマシン上で動作させることが可能です。 よって、CLUSTERPRO X SingleServerSafe のインストールサーバに JRE をインストール すれば、そのサーバ上で Builder および WebManager を使用することができます。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe の動作環境を 確認する

以下に動作環境一覧を示しますので、使用するマシンごとに、動作環境を確認してください。

CLUSTERPRO Server		
対象機種	下記のOSが動作可能なPC	
対応OS	IA32版 Microsoft Windows Server® 2003, Standard Edition Service Pack 2 Microsoft Windows Server® 2003 R2, Standard Edition Service Pack 2 Microsoft Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition Service Pack 2 Microsoft Windows Server® 2008 R2, Enterprise Edition Service Pack 2 Microsoft Windows Server® 2008 Standard Service Pack 1 Microsoft Windows Server® 2008 Enterprise Service Pack 1 Microsoft Windows Server® 2008 Standard Service Pack 2 Microsoft Windows Server® 2008 Enterprise Service Pack 2 Microsoft Windows Server® 2003, Standard Edition Service Pack 2 Microsoft Windows Server® 2003, Enterprise Edition Service Pack 2 Microsoft Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition Service Pack 2 Microsoft Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition Service Pack 2 Microsoft Windows Server® 2008 R2, Enterprise Edition Service Pack 2 Microsoft Windows Server® 2008 R2, Enterprise Edition Service Pack 1 Microsoft Windows Server® 2008 R2, Enterprise Edition Service Pack 1 Microsoft Windows Server® 2008 R2 Enterprise Service Pack 1 Microsoft Windows Server® 2008 R2 Enterprise Service Pack 1 Microsoft Windows Server® 2008 R2 Enterprise Microsoft Windows Server® 2008 R2 Enterprise Service Pack 1 Microsoft Windows Server® 2008 R2 Enterprise Service Pack 1 Microsoft Windows Server® 2008 R2 Enterpr	
メモリサイズ	IA32版 ユーザモード 192MB(*1) カーネルモード 32MB	
	x86_64版 ユーザモード 256MB(*1) カーネルモード 32MB	
ディスクサイズ	IA32版 インストール時 34MB 運用時最大 1290MB	
	x86_64版 インストール時 41MB 運用時最大 1300MB	

(*1) オプション類を除く

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.3 for Windows インストールガイド

WebManager,オンライン版 Builder		
対象機種	下記の OS が動作可能な PC	
動作確認済みOS	Microsoft Windows® XP Service Pack 2 (IA32のみ) Microsoft Windows® XP Service Pack 3 (IA32のみ) Microsoft Windows Vista® Service Pack 1 (IA32のみ) Microsoft Windows® 7 Microsoft Windows® 7 Microsoft Windows® 7 Service Pack 2 (IA32のみ) Microsoft Windows® 8 Microsoft Windows® 8.1 Microsoft Windows® 8.1 Microsoft Windows® 10 Microsoft Windows® 10 Microsoft Windows Server® 2003 Service Pack 1 Microsoft Windows Server® 2003 Service Pack 2 Microsoft Windows Server® 2003 R2 Microsoft Windows Server® 2003 R2 Microsoft Windows Server® 2008 R2 Microsoft Windows Server® 2008 Service Pack 2 Microsoft Windows Server® 2008 Service Pack 1 Microsoft Windows Server® 2008 R2 Microsoft Windows Server® 2008 R2 Microsoft Windows Server® 2012 Microsoft Windows Server® 2012 Microsoft Windows Server® 2012 R2 Microsoft Windows Server® 2016	
動作確認済みブラウザ	[Java 2 対応ブラウザ] Microsoft Windows® XP Service Pack 2 (IA32のみ) Microsoft Windows® XP Service Pack 3 (IA32のみ) の場合 Internet Explorer 6 Service Pack 2 以降 Microsoft Windows Vista® Service Pack 2 (IA32のみ) の場合 Internet Explorer 7 Microsoft Windows® 7 Service Pack 2 (IA32のみ) の場合 Internet Explorer 7 Microsoft Windows® 7 Service Pack 1 の場合 Internet Explorer 7 Internet Explorer 8 Internet Explorer 9 Internet Explorer 10 Internet Explorer 10 Firefox 40.0.3 Microsoft Windows® 8 の場合 Internet Explorer 10 Firefox 15 Microsoft Windows® 8.1 の場合 Internet Explorer 11 Firefox 47.0 Firefox 49.0.2 Microsoft Windows® 10 の場合 Internet Explorer 11 Firefox 44.0 Firefox 46.0 Firefox 50.1.0 Microsoft Windows Server® 2003 Service Pack 1 Microsoft Windows Server® 2003 Service Pack 2 の場合 Internet Explorer 6 Service Pack 1 以降 Microsoft Windows Server® 2008 Service Pack 2 の場合 Internet Explorer 7 Internet Explorer 6 Service Pack 1 以降 Microsoft Windows Server® 2008 Service Pack 2 の場合 Internet Explorer 7 Internet Explorer 7 Internet Explorer 6 Service Pack 1 以降 Microsoft Windows Server® 2008 Service Pack 2 の場合 Internet Explorer 7 Internet Explorer 7 Internet Explorer 7 Internet Explorer 9 Internet Explorer 9 Internet Explorer 11 Microsoft Windows Server® 2008 Service Pack 1 Microsoft Windows Server® 2008 Service Pack 2 の場合 Internet Explorer 7 Internet Explorer 7 Internet Explorer 11 Microsoft Windows Server® 2008 Service Pack 1 Microsoft Windows Server® 2008 Service Pack 1 Microsoft Windows Server® 2008 Service Pack 2 の場合 Internet Explorer 7 Internet Explorer 7 Internet Explorer 11 Microsoft Windows Server® 2008 R2	

	Microsoft Windows Server® 2008 R2 Service Pack 1 の場合 Internet Explorer 8 Internet Explorer 9 Internet Explorer 11 Firefox 41.0 Microsoft Windows Server® 2012 の場合 Internet Explorer 10 Firefox 15 Microsoft Windows Server® 2012 R2 の場合 Internet Explorer 11 Firefox 41.0 Microsoft Windows Server® 2016 の場合 Internet Explorer 11 Firefox 48.0 Firefox 50.1.0
Java実行環境	WebManager を使用するには、Java実行環境が必要です。 Java(TM) Runtime Environment
	Version 6.0 Update 21 (1.6.0_21) 以降
	Java(TM) Runtime Environment Version 7.0 Update 2 (1.7.0_2) 以降
	Java(TM) Runtime Environment Version 8.0 Update 5 (1.8.0_5) 以降
メモリサイズ	ューザモード 40MB
ディスクサイズ (Java実行環境を除く)	0.3MB

注: x86_64 のマシン上で WebManager を動作させるには 32bit 用のブラウザを使用す る必要があります。

注: x86_64 のマシン上で WebManager を動作させるには 32bit 用の Java Runtime Environment を使用する必要があります。

注: Internet Explorer 9 をご利用の場合、http://<IP アドレス>:29003 で接続する場合、事前に該当の IP アドレスを [ローカル イントラネット]の [サイト] に登録する必要があります。

オフライン版Builder		
対象機種	下記のOSが動作可能なPC	
動作確認済みOS	Microsoft Windows® XP Service Pack 2 (IA32のみ) Microsoft Windows® XP Service Pack 3 (IA32のみ) Microsoft Windows Vista® Service Pack 1 (IA32のみ) Microsoft Windows Vista® Service Pack 2 (IA32のみ) Micorsoft Windows® 7 Microsoft Windows® 7 Service Pack 1 Microsoft Windows® 8 Microsoft Windows® 8.1 Microsoft Windows® 8.1 Microsoft Windows® 10 Microsoft Windows 8 10 Microsoft Windows Server® 2003 Service Pack 1 Microsoft Windows Server® 2003 Service Pack 2 Microsoft Windows Server® 2003 R2 Microsoft Windows Server® 2003 R2 Service Pack 2	

	Microsoft Windows Server® 2008 Service Pack 1 Microsoft Windows Server® 2008 Service Pack 2 Microsoft Windows Server® 2008 R2 Microsoft Windows Server® 2008 R2 Service Pack 1 Microsoft Windows Server® 2012 Microsoft Windows Server® 2012 R2 Microsoft Windows Server® 2016
動作確認済みブラウザ	Microsoft Windows Server® 2012 K2 Microsoft Windows® XP Service Pack 2 (IA32のみ)の場合 Internet Explorer 6 Service Pack 2 (IA32のみ)の場合 Internet Explorer 6 Service Pack 2 (IA32のみ)の場合 Internet Explorer 7 Microsoft Windows Vista® Service Pack 2 (IA32のみ)の場合 Internet Explorer 7 Microsoft Windows® 7 Service Pack 2 (IA32のみ)の場合 Internet Explorer 7 Microsoft Windows® 7 Service Pack 1 の場合 Internet Explorer 7 Internet Explorer 8 Internet Explorer 9 Internet Explorer 10 Internet Explorer 10 Firefox 40.0.3 Microsoft Windows® 8 の場合 Internet Explorer 10 Firefox 40.0.3 Microsoft Windows® 8.1 の場合 Internet Explorer 11 Firefox 40.0.2 Microsoft Windows® 10 の場合 Internet Explorer 11 Firefox 43.0.2 Microsoft Windows Server® 2003 Service Pack 2 の場合 Internet Explorer 11 Firefox 40.0 Firefox 50.1.0 Microsoft Windows Server® 2003 Service Pack 2 の場合 Internet Explorer 7 Internet Explorer 11 Firefox 41.0 Firefox 62.0 Microsoft Windows Server® 2008 Service Pack 1 Microsoft Windows Server® 2008 R2 Microsoft Windows Server® 2008 R2 Microsoft Windows Server® 2012 の場合 Internet Explorer 11 Firefox 41.0 Microsoft Windows Server® 2012 の場合 Internet Explorer 11 Firefox 41.0 Microsoft Windows Server® 2012 R2 の場合
山山安石環境	Microsoft Windows Server® 2016 の場合 Internet Explorer 11 Firefox 48.0 Firefox 50.1.0
Java美行 填 項	Builder を使用するには、Java実行環境が必要です。 Java(TM) Runtime Environment Version 6.0 Update 21 (1.6.0_21) 以降

	Java(TM) Runtime Environment Version 7.0 Update 2 (1.7.0_2) 以降		
	Java(TM) Runtime Environment Version 8.0 Update 5 (1.8.0_5) 以降		
メモリサイズ	ユーザモード 32MB		
ディスクサイズ (Java実行環境を除く)	5MB		
対応バージョン	オフライン版 Builderの バージョン	CLUSTERPROの内部バージョン	
	3.1.0-1	11.10	
	3.1.1-1	11.11	
	3.1.3-1	11.13	
	3.1.4-1	11.14	
	3.1.5-1	11.15	
		11.16	
	3.1.7-1	11.17	
	3.1.8-1	11.18	
		11.19	
	3.1.10-1	11.1a	
	3.2.0-1	11.20	
		11.21	
	3.2.1-1	11.22	
		11.23	
	3.3.0-1	11.30	
	3.3.1-1	11.31	
	3.3.2-1	11.32	
	3.3.3-1	11.33	
	3.3.4-1	11.34	
	3.3.5-1	11.35	

注: x86_64 のマシン上で Builder を動作させるには 32bit 用のブラウザを使用する必要 があります。

注: x86_64 のマシン上で Builder を動作させるには 32bit 用の Java Runtime Environment を使用する必要があります。

注:バージョン 3.1.8-1 以前のオフライン版 Builder は Java Runtime Environment Version 7 Update 25 で動作しません。

注:オフライン版 Builder は Java Runtime Environment Version 7 Update 45 で動作しません。

注: Internet Explorer 9 をご利用の場合、http://<IP アドレス>:29003 で接続する場合、事前に該当の IP アドレスを [ローカル イントラネット]の [サイト] に登録する必要があります。

SNMP 連携機能の動作環境

SNMP 連携機能の動作確認を行った OS を下記に提示します。

IA32 版

OS	CLUSTERPRO Version	備考
Microsoft Windows Server® 2003 Service Pack 2	11.10~	
Microsoft Windows Server® 2003 R2 Service Pack 2	11.10~	
Microsoft Windows Server® 2008 Service Pack 2	11.10~	

x86_64 版

OS	CLUSTERPRO Version	備考
Microsoft Windows Server® 2003 x64 Edition Service Pack 2	11.10~	
Microsoft Windows Server® 2003 x64 Edition R2 Service Pack 2	11.10~	
Microsoft Windows Server® 2008 Service Pack 2	11.10~	
Microsoft Windows Server® 2008 R2 Service Pack 1	11.10~	
Microsoft Windows Server® 2012	11.17~	

注: IPv6 による SNMP 情報取得は、Microsoft Windows Server 2008 以降でご利用ください。

JVM 監視の動作環境

JVM 監視を使用する場合には、Java 実行環境が必要です。

Java(TM) Runtime Environment Version6.0 Update 21 (1.6.0_21) 以降

Java(TM) Runtime Environment Version7.0 Update 6 (1.7.0_6) 以降

Java(TM) Runtime Environment Version8.0 Update 11 (1.8.0_11) 以降

Java(TM) Runtime Environment Version9.0 (1.9.0) 以降

JVM 監視ロードバランサ連携機能(BIG-IP Local Traffic Manager と連携する場合)を使用するには、Microsoft .NET Framework の実行環境が必要です。

Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1

Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack

JVM 監視 ロードバランサ連携機能の動作確認を行ったロードバランサを下記に提示します。 IA32 版

ロードパランサ	CLUSTERPRO Version	備考
Express5800/LB400h以降	11.10~	
InterSec/LB400i 以降	11.10~	
InterSecVM/LB V1.0 以降 ※Rel1.0以降適用時のみ	11.10~	
BIG-IP v11	11.13~	
MIRACLE LoadBalancer	11.13~	
CoyotePoint Equalizer	11.13~	

x86_64 版

ロードバランサ	CLUSTERPRO Version	備考
Express5800/LB400h以降	11.10~	
InterSec/LB400i 以降	11.10~	
InterSecVM/LB V1.0 以降 ※Rel1.0以降適用時のみ	11.10~	
BIG-IP v11	11.13~	

第1章 CLUSTERPRO X SingleServerSafe について

MIRACLE LoadBalancer	11.13~	
CoyotePoint Equalizer	11.13~	

システム監視及びシステムリソース情報を収集する機能の動作環境

System Resource Agent を使用するには、Microsoft .NET Framework の実行環境が必要です。

Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1

Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack

注 1: Microsoft .NET Framework のバージョンは、必ず 3.5 を使用してください。

注 2: 環境により、Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1 をインストールすると、 自動で Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack がインストールされる 場合があります。

Windows Server 2008 R2 でのインストール手順

[スタート]メニュー → [管理ツール] → [サーバー マネージャー]

上記手順で、[サーバー マネージャー]が表示されますので、[操作(A)]を選択し、表示されたメニューから [機能の追加]を選択してください。

틡 サーバー マネージャー		
ファイル(E) 操作(A) 表示(V) ヘルプ(E)	Ð	
◆ → 日 役割の追加		
■ サーバー 機能の追加	ッパー マネージャー (SERVER1)	
 ・ 役割 ・ 機能の前時 ・ ・ ・	このサーバーの状態の概要の取得、最上位の	管理タスクの実行、サーバーの役割や機能の追加ま
田 🦷 構成 最新の情報に更新(E)	たは削除を行います。	
🗄 🔚 記憶 🔨ルプ(日)		_
	~ サーバーの概要	2 サーバーの概要ヘルプ
	◎ コンピューター情報	🜉 システム プロパティの変更
	フルコンピュータ server1	👰 ネットワーク接続の表示
	-4:	🐅 リモート デスクトップの構成
	ワークグループ: WORKGROUP	■ サーバー マネージャーのリモート管理 の構成
	ローカル エリア 192.168.0.1, IPv6 (有効) 接続 2:	-
0	最終更新日:今日 8:46 更新間隔の設定	
このサーバーに機能を追加します。		

図1 サーバー マネージャー画面

[機能の追加ウィザード]が表示されますので、[.Net Framework 3.5.1 の機能] にチェッ クを入れ、画面の指示にしたがい、インストールしてください。

機能の追加ウィザード		X
機能の選択		
4.代化 確認 進行状況 結果	CODD-N-K-C(インストールする機能を 1 つ以上選択します。 現在に	

図2機能の追加ウィザード

.Net Framework 3.5 がインストールされているかどうかは [機能の削除ウィザード]で確認できます。

[サーバー マネージャー]画面で、[操作(A)]を選択し、表示されたメニューから[機能の 削除]を選択すると下記画面が表示されます。

[.Net Framework 3.5.1 の機能]がチェックできる場合、インストールされています。

機能の削除	ウィザード		×
	機能の選択		
機能確認 確認 進行社状況 結果		COサーバーから 1 つ以上のインストール済み機能を削除するには、削除する機能のチェック ボックスをオフにしま す。 W能に T Windows Server ½51の状態 の DirectAccess 管理コンソール(インストールされていません) DirectAccess (インストールされていません) Simple TOP/P Services (インストールされていません) Simple TOP/P Services (インストールされていません) Direct サーバラ・(インストールされていません) Direct サーバラ・(インストールされていません) Direct サーバラ・(インストールされていません) T Elect サーバラ・(インストールされていません) Windows Server パックファランの機能(インストールされていません) Windows Server パックファランの機能(インストールされていません) Windows Server パックアップの受いまれ Windows Server パックアップの機能(インストールされていません) Windows Server パックアッフの機能(インストールされていません) Windows Server パックアッフの機能(インストールされていません)	
		<前へ(2) 次へ(10)> 前邸余(2) キャンセル	

図3機能の削除ウィザード

System Resource Agent を Windows Server 2008 R2 に導入する場合、Microsoft が提供 している以下のパッチを適用する必要があります。

パッチ番号: KB981314

以下の URL からパッチを取得し、適用してください。

http://support.microsoft.com/kb/981314/ja

Windows Server 2012 でのインストール手順

サーバがインターネットにつながらない状態の場合、OSのインストール媒体を用意してください。インターネットにつながる状態の場合は必要ありません。

[サーバー マネージャー]を起動し、[ダッシュボード]画面で[クイックスタート]を選択してください。

表示されたメニューから[②役割と機能の追加]を選択し、[役割と機能の追加ウィザード] を表示します。

b	サー	-バーマネージャー	x
<u>())</u> () () () () () () () () () () () () ()	ホード	・ ② │ ✔ 管理(M) ソール(T) 表示(V) ヘルプ(I	+)
🖬 ダッシュポード	サーバー マネージ	ヤーへようこそ	^
■ ローカル サーバー ■■ すべてのサーバー	<i>りイッり スター</i> ト (Q)	1 このローカル サーバーの構成 2 役割と機能の追加	H
	最新情報(W)	3 管理するサーバーの追加 4 サーバーグループの作成	
	詳細情報(L)	非表示	
	役割とサーバー ク 役割の数:0 サ	ブループ サーバー グループの数:1 サーバーの合計数:1	~

図4 サーバーマネージャー

[開始する前に]画面が表示された場合、[次へ]をクリックします。

[インストールの種類]画面で[役割ベースまたは機能ベースのインストール]を選択し、 [次へ]をクリックします。 [サーバーの選択] 画面で[サーバー プールからサーバーを選択] を選択し、一覧から対象サーバを選択して[次へ] をクリックします。

B	役割と	機能の追加ウィザー	-*	_ _ X
対象サーバーの違	選択			対象サーバー WIN-T2VDPRE9ES0
開始する前に	役割と機能をインストールする	サーバーまたは仮想ハ・	ードディスクを選択します。	
インストールの種類	◎ サーバー ブールからサーバ	ーを選択		
サーバーの選択	○ 1仮想ハート ディスクから選	37.		
サーバーの役割	サーバー ノール			
確認	フィルター:			
結果	名前	IP アドレス	オペレーティング システム	
	WIN-T2VDPRE9ES0	192.168.1.74	Microsoft Windows Server	2012 Standard
	1 台のコンピューターが見つか このページには、Windows S 用して遠加されたサーバーが想 サーバーは表示されません。	りました ierver 2012 を実行 気示されます。オフライン	しており、サーバー マネージャーの [t サーバーや、データ収集が完了して	ナーバーの追加] コマンドを使 いない、新たに追加された
		< 前/	へ(P) 次へ(N) > イン	レストール(I) キャンセル

図5 対象サーバの選択

[サーバーの役割]画面で[次へ]をクリックしてください。

[機能]画面で[.Net Framework 3.5 Features] にチェックを入れ、[次へ]をクリックします。

B	役割と機能の追加ウィザード	_ _ X
▲ 機能の選択 開始する前に インストールの種類 サーバーの選択 サーバーの後割 機能 確認 結果	役割と機能の追加ウィザード 選択したサーバーにインストールする機能を 1 つ以上選択します。 機能 ● ● NET Framework 3.5 Features ● ● NET Framework 4.5 Features (インストール済み ● ● NET Framework 4.5 Features (インストール済み ● ● BitLocker ドライブ暗号化 ● BitLocker ドライブ暗号化 ■ BitLocker キットワーク ロック解除 ■ BranchCache ■ HTTP プロキシを経由した RPC □ IP アドレス管理 (IPAM) サーバー □ ISNS サーバー サービス □ LPR ポート モニター ■ Management OData IIS 拡張機能 ■ Media Foundation	 ロ ×
	NF5 グラ1アノト RAS 接続マネージャー管理キット(CMAK) RDC(Remote Differential Compression) Cincle TCO/TO Condense (
	< nu^(P) 2X^(N)	> 172L-11(1) 7721

図6機能の選択

サーバがインターネットにつながる状態の場合、[確認]画面で[インストール]をクリックし、.Net Framework 3.5 をインストールしてください。

サーバがインターネットにつながらない状態の場合、[確認]画面で[代替ソースパスの指定]を選択してください。

b	役割と機能の追加ウィザード	_ _ X
トレンストールオプ 開始する前に インストールの種類 サーバーの種類 サーバーの違訳 サーバーの役割 機能 確認 結果	役割と機能の追加ウィザード ションの確認 選択したサーバーに次の役割、役割サービス、または機能をインストールする(ひ多葉に応じて対象サーバーを自動的に再起動する オブションの機能(管理ツールなど)は、自動的に選択されるため、このページ らのオブションの機能をインストールしない場合は、「前へ」をクリックして、チェッ .NET Framework 3.5 Features .NET Framework 3.5 (.NET 2.0 および 3.0 を含む)	オキサーバー WIN-T2VDPRE9E50 には、[インストール] をクリックしてください。 れに表示されている可能性があります。これ パ ポックスをオフにしてください。
	<u>構成設定のエウスポート</u> 代替ソース バスの指定 <前へ(P) 次へ(N) >	インストール(1) キャンセル

図 7 インストール オプションの確認

表示された画面の説明を参考に[パス]欄へ OS インストール媒体のパスを指定し、[OK] をクリックしてください。その後[インストール]をクリックし、.Net Framework 3.5 をインストー ルしてください。

役割と機能の追加ウイザード	_	-		x
ー 役割と機能の追加ウィザード	x			
代替ソース パスの指定	VIV	対象 N-T2VDPF	サーバ・ E9ES	0
一部のサーバーに、すべての役割、役割サービス、または機能を追加するために必要なすべてのソース ファイルがない可能性がき ります。 ソース ファイルがインストールされていないか、 オペレーティング システムのインストール後に削除された可能性があります。	5 80	フリックして	ださい) _
役割または機能をインストールするサーバーに必要なすべてのソース ファイルがない場合、Windows Update、またはグループ ポリシーで指定されている場所からファイルを取得できる可能性があります。	能でく	性がありま ださい。	す。こ	n
また、対象サーバーにリソース ファイルがない場合は、リソース ファイルの代替バスを指定することもできます。ソース バスまたはファ イル共有は、Everyone グループに読み取りアクセス許可を与えるか(セキュリティ上の理由からお勧めしません)、または対象 サーバーのコンピューター(ローカル システム)アカウントに読み取りアクセス許可を与える必要があります。つまり、ユーザー アカウ トにアクセスを許可しても不十分です。	> _			
次の例は有効なソースファイル パスです。対象サーバーはローカル サーバーで、E:ドライブには Windows Server インストー ル メディアが挿入されています。 .NET Framework 3.5 機能のソースファイルは標準インストールの一環としてはインストールされていませんが、サイド バイ サ ド ストア (SxS) フォルターにあります。 E:¥Sources¥SxS¥	4			
他の機能のソース ファイルは、Install.wim ファイルにあります。パスに WIM: プレフィックスと、ソース ファイルの取得元イメージ インデックスを示すサフィックスを追加してください。次の例では、インデックスは 4 です。 WIM:E:¥Sources¥Install.wim:4	Ø			
パス: ビギギサーバー名ギバスギソース ファイル のK 年やンセル				
<前へ(P) 次へ(N) > イン	ストール(I)) =+7	ンセル	

図8代替ソースパスの指定

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.3 for Windows インストールガイド

インストール前のサーバ環境の確認・準備

実際にハードウェアの設置を行った後に、以下を確認してください。

- 1. ネットワークの確認 (必須)
- 2. ファイアウォールの確認 (必須)
- 3. パワーセービング機能をオフにする (必須)

1. ネットワーク設定を確認する (必須)

ipconfig コマンドや ping コマンドを使用してネットワークの状態を確認してください。

- ◆ IP アドレス
- ◆ ホスト名

2. ファイアウォールの設定を確認する (必須)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe は、デフォルトで以下のポート番号を使用します。この ポート番号について Builder で変更が可能です。これらのポート番号には、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 以外のプログラムからアクセスしないようにしてください。また、ファイア ウォールの設定を行う場合には、CLUSTERPRO X SingleServerSafe が下記のポート番号 にアクセスできるようにしてください。

[自サーバ間内部処理]						
From			То		備考	
サーバ	自動割り当て	\rightarrow	サーバ	29001/TCP	内部通信	
サーバ	自動割り当て	\rightarrow	サーバ	29002/TCP	データ転送	
サーバ	自動割り当て	\rightarrow	サーバ	29003/UDP	アラート同期	
サーバ	29106/UDP	\rightarrow	サーバ	29106/UDP	ハートビート(カーネルモード)	

[サーバ・WebManager 間]					
From			То		備考
WebManager	自動割り当て	\rightarrow	サーバ	29003/TCP	http 通信

[統合 WebManager を接続しているサーバ・管理対象のサーバ間]					
From			То		備考
統合 WebManager を接続したサーバ	自動割り当て	→	サーバ	29003/TCP	http 通信
統合 WebManager の 管理対象となるサーバ	29003	→	クライア ント	29010/UDP	UDP 通信

[その他]		
From	То	備考

第1章 CLUSTERPROX SingleServerSafe について

サーバ	自動割り当て	→	サーバ	Builder で設 定した管理 ポート番号	JVM 監視リソース
サーバ	自動割り当て	Ť	監視先	Builder で設 定した接続 ポート番号	JVM 監視リソース
サーバ	自動割り当て	\rightarrow	サーバ	Builder で設 定したロード バランサ連携 管理ポート番 号	JVM 監視リソース
サーバ	自動割り当て	\rightarrow	サーバ	Builder で設 定した通信 ポート番号	JVM 監視リソース

注: 自動割り当てでは、その時点で使用されていないポート番号が割り当てられます。

OS が管理している通信ポート番号の自動割り当ての範囲が CLUSTERPRO X SingleServerSafe が使用する通信ポート番号と重複する場合があります。

重複している場合は、CLUSTERPRO X SingleServerSafe が使用するポート番号を変更す るか、または OS が管理している通信ポート番号の自動割り当ての範囲を変更してください。

OS が管理している通信ポート番号の自動割り当ての範囲の確認方法および範囲の変更方法は、CLUSTERPRO X の『スタートアップガイド』を参照してください。

3. パワーセービング機能をオフにする (必須)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 環境では、OnNow, ACPI, APM の機能を利用したパワーセービング(スタンバイやハイバネーション)は使用できません。この機能は以下の手順に従って、必ずオフに設定してください。

- 1. [コントロールパネル]-[電源オプション]を起動します。
- [電源設定]タブを選択し、次の設定を行ってください。
 [電源設定]を「常にオン」にする。
 [常にオンの電源設定]で、[モニタの電源]と[ハードディスクの電源]を、ともに「なし」に設定する。
 [システムスタンバイ]を「なし」に設定する。

注: [モニタの電源]、[ハードディスクの電源]、[システムスタンバイ]の設定について、設定 箇所がない場合は設定する必要はありません。

- [休止状態]タブを選択し、次の設定を行ってください。
 [休止状態]の設定で、[休止状態を有効にする]のチェックを外す。
- 4. [OK]をクリックし、OnNow 等の状態にならないことを確認してください。

第2章 CLUSTERPROX SingleServerSafe をインストー ルする

本章では、CLUSTERPRO X SingleServerSafe のインストール手順について説明します。CLUSTERPRO X SingleServerSafe のインストールには、CLUSUTERPRO SingleServerSafe のメインモジュールである CLUSTERPRO Server をインストールします。 SingleServerSafe の構築用に、別途マシンを用意している 場合は、そのマシンに対して、Builder のインストール作業を行ってください。

本章で説明する項目は以下のとおりです。

•	CLUSTERPRO Server のインストール	34
•	オフライン版 CLUSTERPRO Builder のインストール	41
•	Builder を起動する	43

CLUSTERPRO Server のインストール

システムを構築するサーバマシンに、CLUSTERPRO X SingleServerSafe のメインモジュー ルである CLUSTERPRO Server をインストールします。

インストール時にはライセンス登録が要求されます。必要なライセンスファイルまたはライセン スシートを用意しておきます。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を新規にインストールするには

以下の手順に従って、CLUSTERPRO X SingleServerSafe をインストールします。

- 注1: Administrator 権限を持つアカウントでインストールしてください。
- **注 2**: インストールすると、Windows のメディアセンス機能(LAN ケーブル抜け等によるリンク ダウン発生時に IP アドレスを非活性にする機能)が無効になります。
- **注 3**: Windows SNMP Service がインストールされている場合、CLUSTERPRO Server の インストールにより SNMP 連携機能が自動で設定されます。しかし、インストールされ ていない場合は設定されません。 CLUSTERPRO Server インストール後に設定するには「SNMP 連携機能を手動で設 定するには」を参照してください。
- 1. インストール CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れます。
- 2. インストールのメニュー画面が表示されます。



- **注**: メニュー画面が自動で起動しない場合は、CD-ROM のルートフォルダにある menu.exe をダブルクリックします。
- 3. メニュー画面が表示されたら CLUSTERPRO® SingleServerSafe for Windows を選択 します。



注:いずれも選択せずに Exit ボタンをクリックすると、メニューが終了します。

4. CLUSTERPRO® X SingleServerSafe 3.3 for Windows を選択します。



注:いずれも選択せずに Exit ボタンをクリックすると、前のメニュー画面に戻ります。

5. [CLUSTERPRO SingleServerSafe Setup へようこそ] が表示されます。[次へ] をクリックします。



6. [インストール先の選択] が表示されます。変更する場合は [参照] をクリックしてディレク トリを指定します。[次へ] をクリックします。



7. [インストール準備の完了] が表示されます。[インストール] をクリックしてインストールを 開始します。

CLUSTERPRO SingleServerSafe Setup
インストール準備の完了 インストールを開始する準備が整いました。
[インストール]をワリックしてインストールを開始してください。
インストール設定を確認または変更する場合は、(戻る)をグックします。ウィザートを終了するには、「キャンセル」をグックします。
InstaliShield (原る(B) インストール キャンセル

8. インストールが終了すると、[通信ポート番号設定] 画面が表示されます。通常は、既定値 のまま [次へ] をクリックします。

通信ポート番号設定	
通信で使用するポート番号を指定してください。 通常は既定値のままでご使用ください。	
TCP	
WebマネージャHTTPボート番号: 29003	
既に同じポート番号を使用している場合、未使用のボート番号を指定して この設定値はセットアップ後に変更することが可能です。	ください。
展為	<u>*^</u>

- **注**: ここで設定したポート番号は構成情報の作成時に再度設定を行う必要があります。 ポート番号の設定の詳細は『設定ガイド』の「第6章 その他の設定の詳細」の「クラス タプロパティ」を参照してください。
- 9. [ライセンスマネージャ] が表示されます。[登録] をクリックします。
| 響ライセンスマネージャ | _ 🗆 🗙 |
|---|-------------|
| ライセンスの登録、参照、削除を行います。
該当するメニューを選んでください。 | |
| | |
| 参照 / 新除 ライセンス情報の参照/所修を行います。 | |
| | |
| | 18 7 |

10. [ライセンス項目を入力して登録] をクリックしてライセンスを登録します。

第ライセンス登録	_ 🗆 X
ライセンスの登録を行います。 次のいずれかの方法で、ライセンス登録を行ってください。	
ライセンス項目を入力して登録	
登録する製品のライセンス項目を入力して登録を行う。	
ライセンスファイルから登録	
登録する製品のライセンスファイルを選択して登録を行う。	
< 戻る(B) 次へ(4) >	終了

11. ライセンスシートを元に、OS 情報、製品区分、製品名を選択して、[次へ]をクリックします。

SY情報 Windows版 I]	
以品情報		
製品名	」ライセンス種別	-
CLUSTERPRO X 3.3 for Windows	クラスタライセンス	
CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.3 for Windows	クラスタライセンス	
CLUSTERPRO X SingleServerSafe for Windows アップグレードライセンス	クラスタライセンス	
CLUSTERPRO X Replicator DR 3.3 for Windows	ノードライセンス	_
CLUSTERPRO X Replicator DR 3.3 for Windows アップグレードライセンス	ノードライセンス	
CLUSTERPRO X Replicator 3.3 for Windows	ノードライセンス	
CLUSTERPRO X Database Agent 3.3 for Windows	ノードライセンス	
CLUSTEDDDO V Totoroot Server Acent 2 2 for Mindows	1-	

12. ライセンスシートを元に、ライセンス単位、ライセンス数を入力して、[次へ]をクリックしま す。

満うイセンス単位選択	- IX
ライセンス単位を選択してください。 ライセンス単位を選択し、「水へ」を選択してください。 ノード単位を選択した場合は、ノード数を入力してください。 CPU単位を選択した場合は、CPU数を入力してください。	
 C ノード単位 ノードライセンス数 : 2 C CPU単位 CPUライセンス数 : 2 	
<戻る(8) 次へ(N) > キャ	ンセル

13. ライセンスシートを元に、シリアル No、ライセンスキーを入力して、[次へ]をクリックします。

躍ライセンスキー入力		_ 🗆 🗙
シリアルルロとうイセン シリアルロロとうイセン シリアルロ ライセンスキー	パキーを入力します。 パキーを入力し「次へ」を選択してください。 :	
	<戻る(8) 次へ(M) >	キャンセル

14. ライセンス登録確認画面が表示されるので、内容を確認した後、[次へ] をクリックすると、 確認のメッセージが表示されます。

ライセンス	登録確認	×
į)	ライセンスを登録しまし	た。
[<u>OK</u>	

- 15. 上記 9 のライセンスマネージャの最初の画面に戻ります。オプション類のライセンスの登録を同様に行ってください。全てのライセンスの登録が終わったら、[終了] をクリックして、 ライセンスマネージャを終了します。
- 16. [InstallShield Wizard の完了] が表示されます。再起動するかの確認画面が表示されるので、再起動を選択し [完了] をクリックします。直ちにサーバが再起動されます。



注: 既定値は、「いいえ、後でコンピュータを再起動します」になっています。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を新規にサイレントモードでイン ストールするには

サイレントモードとは、インストーラ実行時にダイアログを表示してユーザからの応答を受ける ことなく、自動的にインストールを行う方式です。インストール先のフォルダやインストールオ プションがすべてのサーバマシンで同じである場合には、この機能を使用すると便利です。こ の機能を使用すると、ユーザのインストール時の手間が軽減されるとともに、誤った指定によ るインストールミスを防ぐことができます。

以下の手順に従って、クラスタを構成する各サーバに CLUSTERPRO X SingleServerSafe を インストールします。

- 注1: Administrator 権限を持つアカウントでインストールしてください。
- **注 2**: インストールすると、Windows のメディアセンス機能(LAN ケーブル抜け等によるリンク ダウン発生時に IP アドレスを非活性にする機能)が無効になります。
- 注 3: Windows SNMP Service がインストールされている場合、CLUSTERPRO Server の インストールにより SNMP 連携機能が自動で設定されます。しかし、インストールされ ていない場合は設定されません。 CLUSTERPRO Server インストール後に設定するには「SNMP 連携機能を手動で設 定するには」を参照してください。

<事前準備>

インストール先のフォルダ(既定値は、"C:¥Program Files¥CLUSTERPRO SSS")を変更する場合は、事前に応答ファイルを作成します。以下の手順で応答ファイルを作成してください。

1. 応答ファイルをインストール CD-ROM からサーバからアクセス可能な場所へコピーします。

OS が x86_64 の場合:インストール CD-ROM 内の Windows¥3.3¥common¥server¥x64¥response¥setup_sss_inst_jp.iss をコピーします。

OS が x86 の場合: インストール CD-ROM 内の Windows¥3.3¥common¥server¥x86¥response¥setup_sss_inst_jp.iss をコピーします。

2. 応答ファイル(setup_inst_jp.iss)をテキストエディタで開き、下記★のフォルダを変 更します。

```
Count=4
Dlg1={8493CDB6-144B-4330-B945-1F2123FADD3A}-SdAskDestPath-0
Dlg2={8493CDB6-144B-4330-B945-1F2123FADD3A}-SdStartCopy2-0
Dlg3={8493CDB6-144B-4330-B945-1F2123FADD3A}-SdFinishReboot-0
[{8493CDB6-144B-4330-B945-1F2123FADD3A}-SdWelcome-0]
Result=1
[{8493CDB6-144B-4330-B945-1F2123FADD3A}-SdAskDestPath-0]
szDir=C:¥Program Files¥CLUSTERPRO SSS ★
Result=1
....
```

<インストール手順>

1. コマンドプロンプトから下記のコマンドを実行し、セットアップを起動します。

"<*silent-install.bat のパス*>¥silent-install.bat" <応答ファイルのパ ス>

※<silent-install.batのパス>は、 OSがx86_64の場合:インストール CD-ROM内の Windows¥3.3¥common¥server¥x64¥silent-install.bat

OS が x86 の場合:インストール CD-ROM 内の Windows¥3.3¥common¥server¥x86¥silent-install.bat

※既定値("C:¥Program Files¥CLUSTERPRO SSS")でインストールする場合、 <応答 ファイルのパス>は省略してください。

2. コマンドプロンプトから下記のコマンドを実行し、ライセンスを登録します。

"<*インストール先のフォルダ*>¥bin¥clplcnsc.exe" -i <*ライセンスファイルのパ* ス>

3. サーバを再起動します。

オフライン版 CLUSTERPRO Builder のインストール

オフライン版 CLUSTERPRO Builder は CLUSTERPRO X SingleServerSafe をインストール したサーバにインストールする必要はありません。Web ブラウザで CLUSTERPRO X SingleServerSafe に接続することができないマシンで CLUSTERPRO X SingleServerSafe の構成情報を作成・変更する場合にのみ、そのマシンにインストールしてください。

オフライン版 CLUSTERPRO Builder をインストールするには

以下の手順に従って、オフライン版 CLUSTERPRO Builder をインストールします。

- **注**: CLUSTERPRO Builder は Administrator 権限を持つアカウントでインストールしてください。
- 1. インストール CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れます。
- 2. インストールのメニュー画面が表示されます。



注: メニュー画面が自動で起動しない場合は、CD-ROM のルートフォルダにある menu.exe をダブルクリックします。

3. メニュー画面が表示されたら CLUSTERPRO® SingleServerSafe for Windows を選択 します。



4. CLUSTERPRO® SingleServerSafe Accessories を選択します。



5. CLUSTERPRO® SingleServerSafe Builder を選択します。

CLUSTERPRO(R) Setup Menu
CLUSTERPRO Setup Menu
CLUSTERPRO(R) SingleServerSafe Builder
CLUSTERPRO(R) SingleServerSafe Template Scripts
Exit
NEC Copyright (C) NEC Corporation 2015

6. [Cluster Builder self-extracting dialog]ダイアログボックスが表示されるので、インストール先を選択し、[解凍]をクリックします。



- **注**:指定したインストール先に、「¥CLUSTERPRO SSS ¥clpbuilder-w」のフォルダが作成され、Builder 画面表示用の HTML ファイル「clptrek.htm」と各種設定情報ファイルがインストールされます。
- 7. [ZIP 自己解凍]ダイアログボックスが表示されるので[OK]をクリックし、インストールが完 了します。

ZIP自己解	ā 🗵
i	解凍に成功しました.
	ÖK

Builder を起動する

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用するサーバにネットワーク接続できるマシン(自 サーバを含む)上で起動するBuilderを「オンラインBuilder」、ネットワーク接続せずに起動する Builder を「オフライン Builder」と呼びます。設定画面や設定内容は同一ですが、起動方法や 設定情報の反映の方法に違いがあります。 以下に、それぞれの手順を説明します。

オンライン版 Builder の起動

以下の手順に従って、オンライン版 CLUSTERPRO Builder を起動します。

 WebManager を起動します。ブラウザを起動し、ブラウザのアドレスバーに、 CLUSTERPRO X SingleServerSafe をインストールしたサーバの IP アドレスとポート番 号を入力します。

http://192.168.0.1:29003/



インストール時に指定したWebManager のポート番号を 指定します(既定値29003)。

CLUSTERPRO X SingleServerSafeをインストールしたサーバのIPアドレスを指定します。 自サーバの場合は、localhostでも問題ありません。

- **注1**: CLUSTERPRO X SingleServerSafe をインストールして、サーバを再起動していない状態では、WebManager が起動できないので、必ず、サーバを再起動してください。
- **注 2**: WebManager の起動には、JRE が必要です。忘れずに JRE をインストールしてく ださい。
- 2. [表示] メニューから [設定モード] をクリックするか、ツールバーのドロップダウンメ ニューから [➡設定モード]を選択して、設定モード(オンライン版 Builder)に切り替えま す。

🖉 Cluster Manager – Microsoft Interr	et Explorer				
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入()(A) ツール(T) ヘルプ(H)				
③ 戻る ▼ ④ ▼ 🖹 👔 🏠 🔎 検索	☆ お気に入り 🛷 🛛 🖂 📃	-			
アドレス(D) (例) http://localbost/29003/					▼ ▶ 移動 リンク ≫
	n				
ファイル(E) 表示(V) 編集(E) ヘルフ(E)	1)				
🕞 設定モード 🛛 🗖 🗒	% %				
to W2X3)p-1	全前 Servers Groups Monitors				
▲ 種類 受信時刻	発生時刻 ▼	サーバ名	モジュール名	イベントル	
0 2010/09/16 11:11:14.828	2010/09/16 11:11:14.796	w2k3jp-1	rm	1501	監視 diskwlocal が起動しました
2010/09/16 11:11:10.359	2010/09/16 11:11:10.359	w2k3jp-1	nm	1	サーバw2k3jp-1が起動しました
2010/09/16 11:10:34.468	2010/09/16 11:10:34.406	w2k3jp-1	pm	501	クラスタサービスは正常に開始
•	Ш				•
🝯 アプレット WebManager started					🔰

オフライン版 Builder の起動

以下の手順に従って、オフライン版 CLUSTERPRO Builder を起動します。

- **1.** インストールフォルダ(既定値:C:¥Program Files¥CLUSTERPRO SSS¥clpbuilder-w) にある Builder 画面表示用の HTML ファイル「clptrek.htm」をダブルクリックします。
- 2. ブラウザが起動します。
- 3. セキュリティのワーニングが表示された場合は、情報バーをクリックし、ブロックされている コンテンツを許可してください。



注:	Builder の起動には、	JRE が必要です。	忘れずに JRE をイン	ストールしてください。
----	----------------	------------	--------------	-------------

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.3 for Windows インストールガイド

SNMP 連携機能を手動で設定するには

注: SNMP トラップ送信機能のみを使う場合は、本手順は必要ありません。

SNMP による情報取得要求に対応するためには、別途 Windows SNMP Service および SNMP 連携機能の登録が必要です。

通常、CLUSTERPRO Server インストール時に Windows SNMP Service が存在する場合 は SNMP 連携機能が自動で登録されますが、存在しない場合は登録されません。

このような場合、以下の手順に従って、手動で登録を行ってください。

注: 設定は Administrator 権限を持つアカウントで実行してください。

- 1. Windows SNMP Service をインストールします。
- 2. Windows SNMP Service を停止します。
- 3. Windows SNMP Service に CLUSTERPRO の SNMP 連携機能を登録します。
 - 3-1. レジストリエディタを起動します。
 - 3-2. 以下のキーを開きます。

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥ Services¥SNMP¥Parameters¥ExtensionAgents

3-3. 開いたキーに以下の内容で文字列値を作成します。

値の名前	: mgtmib
値の種類	:REG_SZ
値のデータ	:SOFTWARE¥NEC¥CLUSTERPRO¥
	SnmpAgent¥mgtmib¥CurrentVersion

3-4. レジストリエディタを終了します。

4. Windows SNMP Service を起動します。

注: SNMP 通信に必要な設定は Windows SNMP Service 側で行います。

第3章

CLUSTERPRO X SingleServerSafe をバージョン アップ/アンインストール/再インス トール/アップグレードする

本章では、CLUSTERPRO X SingleServerSafe のバージョンアップ、アンインストール、再インストール、 CLUSTERPRO X へのアップグレードの各手順について説明します。

本章で説明する項目は以下のとおりです。

•	CLUSTERPRO X SingleServerSafe のバージョンアップ	48
•	CLUSTERPRO X SingleServerSafe のアンインストール	51
•	CLUSTERPRO X SingleServerSafe の再インストール	55
•	CLUSTERPRO X へのアップグレード ······	56

第3章 CLUSTERPROX SingleServerSafe をバージョンアップ/アンインストール/再インストール/アップ グレードする

CLUSTERPRO X SingleServerSafe のバージョン アップ

旧バージョンの CLUSTERPRO X SingleServerSafe を新バージョンの CLUSTERPRO X SingleServerSafe にバージョンアップします。

旧バージョンの CLUSTERPRO X SingleServerSafe からバージョン アップするには

まず、以下の注意事項をご確認ください。

- ◆ CLUSTERPRO X SingleServerSafe 1.0/2.0/2.1 for Windows から CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.3 for Windows へのバージョンアップが可能です。それ以外の バージョンからのバージョンアップはできません。
- ◆ CLUSTERPRO X SingleServerSafe 1.0/2.0/2.1 for Windows から CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.3 for Windows へのバージョンアップには、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.3 for Windows のライセンス(各種オプション製品をご使用の場合 はそれらのライセンスを含む)が必要です。
- ◆ 本製品より新しいバージョンで作成されたクラスタ構成情報は、本製品で利用することはできません。
- ◆ CLUSTERPRO X1.0 / 2.0 / 2.1 / 3.0 / 3.1 / 3.2 / 3.3 for Windows のクラスタ構成情報 は本製品で利用することができます。

以下、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 1.0/2.0/2.1 for Windows からバージョンアップする場合の手順について説明します。

注: Administrator 権限を持つアカウントでバージョンアップしてください。

- 1. サーバの状態、および全リソースの状態が正常状態であることを WebManager またはコ マンドから確認してください。
- **2.** サーバでフェイルオーバグループが動作している場合、WebManager を操作して、フェイルオーバグループを停止してください。
- **3.** CLUSTERPRO X SingleServerSafe のサービスの [スタートアップの種類] を [手動] に設定します。

ファイル(F) 操作(A) 表示(V) ヘルブ(H) ・ (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)
通り一ビス(ローカル) 注意 サービス(ローカル) 項目を選択すると説明が表示されます。 注前 10.0 開始 自動 Local (日本に知った) 日本に知ったいないので、 日本の 日本の 日本の 日本の 日本の (日本に知ったいないので、 日本の 日本の 日本の 日本の 日本の 日本の (日本の) 日本の 日本の
項目を選択すると説明が表示されます。 2 新 ・ 1 2 0 - 12 - 12 - 12 - 12 - 12 - 12 - 12
Control Directory Ubonain Servic. A /D L FMSE 目前 Local Control Directory Web Servic. A /D L FMSE 目前 Local Control Directory Web Services Z D/H . 開始 自動 Local Control Directory Web Service Z Libn. 開始 手動 Local Control Directory Heb Service Z Libn. 開始 手動 Local Control Directory Heb Service Z Libn. 開始 手動 Local Control Directory Heb Service Z Libn. 目前 Local Control Directory Heb Service Z Libn. 目前 Local Control Directory Heb Service Z Libn. 目前 Local Control Directory Heb Service Z Library Heb Local Control Directory Heb Local Control Directory Heb Local Control Directory Heb Local
Application Experience 起動」 開始告 手動 Local Application Host Helper Service 取じた 開始告 手動 Local Application Identity アプリュ 手動 Local Application Identity アプリュ 手動 Local Application Information 180n 手動 Local Application Management グルー 手動 Local Application Management グルー 手動 Local Application Information 100n 手動 Local Application Identity アパー 手動 Local Application Information アルー 手動 Local Application Respective アイドー 手動 Local Application Respective アイドー 手動 Local Construction Jan テ動 Local Construction Jan テ動 Local Construction フーザー 手動 Local Construction フーザー 手動 Local
Application Host Helper Service IS (こ、開始) 白動 Local Application Identify アプリ、 手動 Local Application Identify アプリ、 手動 Local Application Layer Gateway Servi インタ 手動 Local Application Management グルー、 手動 Local Background Intelligent Transfer パイト 手動 Local Gases Filtering Engine ベース、開始 自動 Local Construction Engine ベース、開始 自動 Local
Application Identity アプリ. 千動 Local Capplication Identity アプリ. 千動 Local Capplication Information 150m。千動 Local Capplication Management グルー 千動 Local Capplication Management グルー 千動 Local Capplication Management ゲイニ 千動 Local Capplication Management ディス 開始 自動 Local Capplication Propagation ユーザ. 千動 Local
G Application Information 300 手動 Local C Application Layer Gateway Servi インタ 千動 Local Application Management グルー 手動 Local C Background Intelligent Transfer アイド 手動 Local C Background Intelligent Transfer アイド 手動 Local C Background Intelligent Transfer アイド 手動 Local
G Application Layer Gateway Servi インタ. 手動 Local C Application Management グルー. 手動 Local G Background Intelligent Transfer アイド 手動 Local G Base Filtering Engine ペース 開始 自動 Local C C Criticate Propagation ユーザ. 手動 Local
G Application Management グルー、手動 Local Background Intelligent Transfer アイド 手動 Local G Base Filtering Engine ペース開始 自動 Local G Certificate Propagation ユーザ. 手動 Local
G Background Intelligent Transfer アイドニ 年載 Local G Base Fitterine Engine ペース開始 自動 Local G Certificate Propagation ユーザー 手動 Local
G Base Filtering Engine ベース、開始 目前 Local C Certificate Propagation ユーザー 手動 Local
Certificate Propagation <u>1</u> – 5 1 500 Local
〇 CLUSTERPRO 開始 自動 Local
GCUSTERPRO Disk Agent 無効 Local
G CLUSTERPRO Event 開始 Local
CLUSTERPRO Manager 開始 自動 Local
🤹 CLUSTERPRO Old API Support 開始 自動 Local
CLUSTERPRO Server 開始 自動 Local
GLUSTERPRO SingleServerSafe 開始 自動 Local
G CLUSTERPRO Transaction 開始 自動 Local
GLUSTERPRO Web Alert 開始 自動 Local
GUM+ Event System サポー」開始 目動 Local
\ 抠朱 人標準 /

注: CLUSTERPRO Disk Agent サービスは、「無効」のため、変更しません。

- 4. WebManager またはコマンドからクラスタシャットダウンでサーバの再起動を行います。
- **5.** システム再起動後、「SNMP Service」サービスを[停止] します。(「SNMP Service」サービスが存在して起動中の場合のみ)
- 第2章の「CLUSTERPRO X SingleServerSafeを新規にインストールするには」の1~ 4の手順に従って、「CLUSTERPROサーバ」のインストーラを起動します。[次へ]を選択し てバージョンアップを行ってください。



- 7. ファイルの置換後、[ライセンスマネージャ] が起動します。必要なライセンスを登録してく ださい。
- 8. ライセンス登録を終了すると、[InstallShield Wizard の完了] が表示されます。再起動す るかの確認画面が表示されるので、再起動しないを選択し [完了] をクリックします。

第3章 CLUSTERPROX SingleServerSafe をバージョンアップ/アンインストール/再インストール/アップ グレードする



9. 下記サービスの [スタートアップの種類] を [自動] に設定します。

ぬ サービス						- II ×
ファイル(F) 操作(A)	表示(V) ヘルプ(H)					
	è 🛛 🖬 🕑 🖉 🖬 🕬					
🔍 サービス (ローカル)	😋 サービス (ローカル)					
	夜日本 深切せて いきのいがま 二さかませ	- 2前 ▲	1988	状能	フタートアップの種類	_ <u>π</u> <i>β</i> : _▲]
	項目を選択すると説明が表示されます。	Active Directory Domain Services	AD D	開始		Loca
		Active Directory Web Services	このサ	開始	自動	Loca
		Application Experience	起動		手動	Loca
		🙀 Application Host Helper Service	IIS (2	開始	自動	Loca
		🔍 Application Identity	アプリ		手動	Lock
		🔍 Application Information	追加		手動	Loca
		🔍 Application Layer Gateway Service	インタ		手動	Loca
		🔍 Application Management	グルー		手動	Loca
		🔍 Background Intelligent Transfer S	アイド		手動	Loca
		🤐 Base Filtering Engine	ベース	開始	自動	Loca
		Certificate Propagation	ユーザ		手動	Loca
		CLUSTERBRO			千卦	law
		CLUSTERPRO Dick Agent			丁動	Lock
		CLUSTERPRO Disk Agenit			無別	Lock
		CLUSTERPRO Manager			工動	Loca
		CLUSTERPRO Old API Support			1950	Loca
		CLUSTERPRO Server			手動	Locz
		CLUSTERPRO SingleServerSafe			手動	Loca
		CLUSTERPRO Transaction			手動	Loca
		CLUSTERPRO Web Alert			手動	Loca
		CNG Key Isolation	CNG		于叨	LOCA
		🔍 COM+ Event System	サポー	開始	自動	Loca
		🔍 COM+ System Application	コンポ		手動	Loca
			4.1		/mr +1	
	↓ 拡張 √ 標準 /					

 注: CLUSTERPRO Disk Agent サービスは、「無効」のため、変更しません。
 X 1.0 で提供されていた「CLUSTERPRO Alert」サービスは、X 3.3 では通常の実行 ファイルの形態で提供されるため、バージョンアップによりサービスから削除されます。

- 10. OS を操作して、サーバを再起動します。
- **11.** 以上で CLUSTERPRO X SingleServerSafe のバージョンアップは完了です。 WebManager または clpstat コマンドで、[内部バージョン]が "11.30"以降 となっていて、 正常に動作していることを確認してください。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe のアンインス トール

CLUSTERPRO X SingleServerSafe のアンインストール

注: CLUSTERPRO X SingleServerSafe のアンインストールは、必ず アドミニストレータ権 限を持つユーザで実行してください。

以下の手順に従って、CLUSTERPRO X SingleServerSafe をアンインストールします。

- 1. OS の[管理ツール]→[サービス]を選択し、サービスマネージャから以下のサービスのス タートアップの種類を手動起動に変更します。
 - CLUSTERPRO
 - CLUSTERPRO Event
 - CLUSTERPRO Manager
 - CLUSTERPRO Old API Support
 - CLUSTERPRO Server
 - CLUSTERPRO SingleServerSafe
 - CLUSTERPRO Transaction
 - CLUSTERPRO Web Alert
- 2. サーバを再起動します。
- 3. CLUSTERPRO X Alert Service を利用している場合、タスクトレイに存在する CLUSTERPROの通報アイコンを終了します。
- 4. OS の[コントロールパネル]→[プログラムの追加と削除]を選択し、プログラムの追加と削 除画面を起動します。

	コントロール パネルギプログラムギプロ	ログラムと機能		
	יאלא אישראלב י 🔄 🗸	▼ プログラム ▼ プログラムと機能	▼ 🛂 プログラムと機	能の検索
	コントロール パネル ホーム	プログラムのアンインストールまたは淡 プログラムをアンインストールするには、一	で更 簡からプログラムを選択して「アンインストー」	」、[変更]、または [修復] を
6	また。 Windows の機能の有効化または 無効化	クリックします。 222 - 2		III 🕶 🔞
	ネットワークからプログラムをインスト ール	注前 ▲ CLUSTERPROSingleServerSafe Java 7 Update 7 Microsoft Visual C++ 2008 Express E 別 Microsoft Visual Studio 2008 リモート Microsoft Windows SDK for Visual St 何Microsoft Windows SDK for Visual St 何Microsoft Windows SDK for Visual St	※行元 NEC Oracle dition - 日 Microsoft Corporation デパッガラ. Microsoft Corporation udio 2008 _ Microsoft Corporation	・ インスト」 * サイズ ・ * 2015/01/- 2012/09/- 2009/09/- 2009/09/- 2009/09/- 5.62 MB 2009/09/- 2.61 MB
		Wicrosoft Windows SDK for Visual St	udio 2008 – Microsoft Corporation udio 2008 – Microsoft Corporation	2009/09/_ 114 MB 2009/09/_
		・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	プログラム 合計サイズ: 220 MB ざれています	

5. CLUSTERPRO SingleServerSafe を選択し、[削除] / [アンインストール]をクリックしま す。

	コントロール パネルギプログラムギプロ	コグラムと機能		
C	עלא ע−םאכב • 🔄 ⊽	▼ プログラム ▼ プログラムと機能	 	髪能の検索 💋
	コントロール パネル ホーム	プログラムのアンインストールまたはま		山 「広志正」 本本/十 [/22/27] ナ
	インストールされた更新プログラムを 表示	クリックします。	"見からノロクラムを選択して レイノイノストー	ルト ロビモト または ロジスター て
0	Windows の機能の有効化または 無効化	整理 ▼		i≣ - (2)
	ネットワークからプログラムをインスト ール	名前 ^	▼ 発行元	
		GUDD I EKPKD Single Serversate Gudate 7 Gud	NEO Oracle Edition - 日 Microsoft Corporation ガルガラニー Microsoft Corporation tudio 2008 Microsoft Corporation tudio 2008 Microsoft Corporation itudio 2008 Microsoft Corporation	2012/09/130 MB 2009/09/ 2009/09/ 2009/09/ 2009/09/5.82 MB 2009/09/5.81 MB 2009/09/114 MB 2009/09/114 MB
		・ 現在インストールされている 8個のプログラムがインストール	・プログラム 合計サイズ: 220 MB いざれています	Þ

6. アンインストールの確認メッセージが表示されるので[はい]を選択します。[いいえ]を選択 した場合、アンインストールは中止されます。



7. SNMP サービスが開始している場合、以下のように SNMP サービス停止の確認メッセージが表示されますので[はい]を選択します。[いいえ]を選択した場合、アンインストールは中止されます。



 メディアセンス(TCP/IP 断線検出)機能を CLUSTERPRO サーバインストール前の状態に 戻すかの確認メッセージが表示されます。 CLUSTERPRO サーバインストール前の状態 に戻す場合は[はい]を選択してください。[いいえ]を選択した場合、メディアセンス機能が 無効な状態のまま CLUSTERPRO Server がアンインストールされます。



9. [CLUSTERPRO Server Setup]ダイアログにアンインストールの終了メッセージが表示され、[完了]をクリックします。



コンピュータの再起動の確認メッセージが表示されます。必要に応じて、今すぐ再起動するかを選択し[完了]をクリックしてください。CLUSTERPRO Server のアンインストールが完了します。



注: CLUSTEREPRRO の CPU クロック制御機能により CPU クロックを変更した状態で CLUSTERPRO のアンインストールを実施すると、その後も CPU クロックは元の状態 に戻りません。この場合、以下の方法により CPU のクロックレベルを既定値に戻してく ださい。

Windows Server 2003 の場合: コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行してください。

powercfg /X "常にオン" /processor-throttle-ac none

/X オプションで指定する文字列は、[コントロールパネル]の[電源オプション]→[電源設 定]で選択している現在の設定の名前です。 Windows Server 2008, Windows Server 2012 の場合:

[コントロールパネル]の[電源オプション]→[電源プランの選択]で [バランス]を選択して ください。

オフライン版 CLUSTERPRO Builder のアンインストール

以下の手順に従って、CLUSTERPRO Builder をアンインストールします。

- 1. Web ブラウザをすべて終了します (タスクトレイから JavaVM のアイコンが消えるのを 確認してください)。
- **2.** エクスプローラで、CLUSTERPRO Builder をインストールしたフォルダを削除します。インストールフォルダの既定値は、「C:¥Program Files¥CLUSTERPRO SSS」です。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe の再インス トール

CLUSTERPRO X SingleServerSafe の再インストール

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を再インストールする場合、Builder で作成した構成情報(構成変更を行った場合は最新の構成情報)が必要です。

構成変更後には、必ず最新の構成情報を保存してください。構成情報は作成時に Builder で 保存する他に、clpcfctrl コマンドでバックアップを作成することもできます。詳細は『操作ガイ ド』の「第2章 CLUSTERPROX SingleServerSafe コマンドリファレンス」の「構成情報をバッ クアップする」を参照してください。

以下の手順に従って、CLUSTERPRO X SingleServerSafe を再インストールします。

- 1. 構成情報をバックアップします。
- CLUSTERPRO X SingleServerSafe をアンインストールします。 OSを再インストールする場合、CLUSTERPRO Serverのアンインストールは不要ですが、 以前に CLUSTERPRO Server をインストールしていたフォルダに再インストールする場 合、インストールフォルダ配下のファイルを削除する必要があります。
- 3. アンインストールが完了したら OS をシャットダウンします。
- **4.** CLUSTERPRO X SingleServerSafe をインストールし、必要に応じてライセンスを登録 します。インストールが完了したら OS をシャットダウンします。
- 5. 構成情報をサーバに反映します。 バックアップした構成情報を Builder で読み込み、アップロードにより反映します。Builder の操作方法は、『設定ガイド』の「第2章 構成情報を作成する」の「構成情報を反映する」 を参照してください。

第3章 CLUSTERPROX SingleServerSafe をバージョンアップ/アンインストール/再インストール/アップ グレードする

CLUSTERPRO X へのアップグレード

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を CLUSTERPRO X ヘアップグレードする場合、 Builder で作成した構成情報(構成変更を行った場合は最新の構成情報) を移行することがで きます。

この場合、アップグレードを開始する前に、最新の構成情報を保存してください。構成情報は 作成時にBuilderで保存する他に、clpcfctrl コマンドでバックアップを作成することもできます。 詳細は『操作ガイド』の「第2章 CLUSTERPROX SingleServerSafe コマンドリファレンス」 の「構成情報をバックアップする」を参照してください。

以下の手順に従って、CLUSTERPRO X SingleServerSafe を CLUSTERPRO X にアップ グレードします。

- 1. 構成情報をバックアップします。
- アップグレードするサーバで CLUSTERPRO X SingleServerSafe をアンインストールします。アンインストール手順の詳細は、本書の「CLUSTERPRO X SingleServerSafe のアンインストール」を参照してください。
- 3. アンインストールが完了したら OS をシャットダウンします。
- CLUSTERPRO X をインストールし、CLUSTERPRO X の環境を構築します。ここで、 バックアップした構成情報を利用することができます。CLUSTERPRO X の構築手順につ いては、CLUSTERPRO X のマニュアルを参照してください。
 - 注: CLUSTERPRO X にはライセンス登録時に、以下のライセンスを登録します。
 * CLUSTERPRO X SingleServerSafe (2CPU ライセンス)
 * CLUSTERPRO X SingleServerSafe アップグレードライセンス
 これらのライセンスは CLUSTERPRO X (2CPU ライセンス) として使用することが可能です。

第4章 最新バージョン情報

本章では、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の最新情報について説明します。新しいリリースで強化された点、改善された点などをご紹介します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

•	最新バージョン	 58
•	機能強化情報	 59

最新バージョン

2017 年 10 月時点での CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.3 for Windows の最新内部バー ジョンは 11.35 です。

最新情報は CLUSTERPRO のホームページで公開されている最新ドキュメントを参照してください。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe の内部バージョンは、WebManager で確認してください。 WebManager のツリービューからサーバのアイコンを選択すると、内部バージョンがリストビューに表示されます。

内部バージョンが 11.34 以前の場合、アップデート CPRO-XW430-25 を適用することにより 11.35 にバージョンアップすることができます。アップデートの適用手順と、アップデートにより修正さ れる障害情報については、アップデート手順書を参照してください。

機能強化情報

各バージョンにおいて以下の機能強化を実施しています。

項 番	内部バージョン	機能強化項目
1	11.00	WebManagerとbuilderが同一ブラウザ画面から操作可能になりました。
2	11.00	設定情報のアップロード時、設定されている IP アドレスをチェックする機能を追加し ました。
3	11.00	他サーバや CLUSTERPRO 以外の監視ツールから CLUSTERPRO に対して障害 の通知等を行う clprexec コマンドと、通知された障害に対して復旧動作を実行する 外部連携監視リソースを追加しました。
4	11.00	Oracle 監視のタイムアウト発生時、監視プロセスのダンプ情報を取得することが可能 になりました。
5	11.00	Oracle 監視で異常を検出した際、Oracle の詳細情報を取得することが可能になりま した。
6	11.00	Hyper-V のゲスト OS をリソースとして扱えるようにしました。
7	11.00	アプリケーションリソースで起動したアプリケーションとスクリプトリソースで起動した バッチファイルについて、終了コードで異常の有無を判別して異常検出時の復旧動 作を行えるようになりました。
8	11.02	スクリプトリソースで start.bat と stop.bat で異なる戻り値を扱えるようにしました。
9	11.02	[clpmonctrl] コマンドにモニタリソースの回復動作の回数を表示およびリセットする オプションを追加しました。
10	11.10	グループ/リソースの最大数が倍増しました。
11	11.10	フェイルオーバグループの起動/停止待ち合わせが行えるようになりました。
12	11.10	WebManagerとclpmonctrlコマンドで、意図的に擬似障害を発生させるための障害 検証機能を実装しました。
13	11.10	Android 端末から接続可能な WebManager を実装しました。
14	11.10	CLUSTERPRO の MIB を定義しました。
15	11.10	SNMP による情報取得要求に対応しました。
16	11.10	SNMP トラップ送信機能を追加しました。

17	11.10	モニタリソースの回復時の動作として、任意のスクリプトを実行する機能を実装しました。また、再活性処理、フェイルオーバ処理の前にもスクリプトを実行できるようにしました。
18	11.10	モニタリソースで異常を検出した場合に、回復動作を行わない回復動作抑制機能を 実装しました。
19	11.10	Database Agent の監視機能を強化しました。
20	11.10	スクリプトに使用できる環境変数を追加しました。
21	11.10	スクリプトテンプレートを用いて、容易にスクリプトの設定を行えるようになりました。
22	11.10	設定モード画面が 800*600 の画面サイズでも不足なく表示されるようにしました。
23	11.10	ブラウザのポップアップブロックが設定されていてもログのダウンロードが可能になり ました。
24	11.10	ライセンスが未登録の機能は設定時に表示されないようになりました。
25	11.10	自動的に登録されるモニタリソースの種類を拡充しました。
26	11.10	clprexec コマンドのコマンドタイムアウトのデフォルトを 30 秒から 180 秒に変更しま した。
27	11.10	プロセス名監視リソース (psw) を追加しました。
28	11.10	JVM 監視リソース (jraw) を追加しました。
29	11.10	システム監視リソース (sraw) を追加しました。
30	11.10	サービスリソース設定時に、クラスタサーバにインストールされているサービスのー 覧を取得する機能を追加しました。
31	11.11	グループ停止待ち合わせの条件を設定できるようになりました。(クラスタ停止時、 サーバ停止時)
32	11.11	クラスタ生成ウィザードの最後に表示される回復動作抑制機能ポップアップの表現を 改善しました。
33	11.11	System Resource Agentのディスク容量監視登録数を10台から26台に拡張しました。
34	11.13	WebManagerに時刻情報表示機能を追加しました。
35	11.13	構成情報反映後、クラスタ起動、リジュームを自動実行する機能を追加しました。
36	11.13	WebManagerの設定モードで設定情報の編集を行った場合、ブラウザの終了やリ ロード等をガードする機能を追加しました。
37	11.13	WebManagerで物理マシン、仮想マシンを区別して設定、表示できるようにしました。
38	11.13	ディスク RW 監視リソースに、ディスクフル検出時に異常としない設定を追加しました。

39	11.13	プロセス名監視リソースにプロセス個数監視機能を追加しました。
40	11.13	Oracle 監視リソースにおいて Oracle 起動中(ORA-1033)のエラーを異常とし て検出しないようになりました。
41	11.14	WebManager が Java SE Runtime Environment 7 の環境に対応しました。
42	11.15	Windows Server 2012 に対応しました。
43	11.15	WebManagerからライセンス情報一覧の参照が可能になりました。
44	11.15	CLUSTERPROインストール時、デスクトップにWebManagerのショートカットを作成 するようにしました。
45	11.15	Websphere監視リソースが WebSphere 8.0 に対応しました。
46	11.15	JVM監視リソースのロードバランサ連携機能がBIG-IP LTMに対応しました。
47	11.15	JVM監視リソースが WebOTX ESB 8.5, WebSAM SVF for PDF 9.1, WebSAM Report Director Enterprise 9.1, WebSAM Universal Connect/X 9.1 に対応しまし た。
48	11.15	ディスクRW監視リソースにwrite throughで監視するモードを追加しました。
49	11.15	システムリソース使用状況の時系列データから将来値予測を行い、キャパシティプラ ンニング等に活用可能なコマンド(clpprer)を追加しました。
50	11.15	システムリソース不足を起因とした障害の原因特定を容易にする、システムリソース 情報の定期採取機能を追加しました。
51	11.15	Oracle監視リソースにて、Windows 2008以降の環境でUAC環境下におけるOS認 証設定が行えなかった制限を解除しました。
52	11.17	PostgreSQL監視がPostgreSQL9.2 に対応しました。
53	11.17	SNMP連携機能が Windows Server 2012 に対応しました。
54	11.18	ログ収集のタイプを追加しました(既定値ではJava Resource Agent, System Resource Agent のログを採取しないようになりました)。
55	11.18	グループリソースの活性/非活性ストール発生時動作の種類を選択可能としました。
56	11.18	Websphere 監視リソースが WebSphere 8.5 に対応しました。
57	11.1a	オフライン版Builder が Java Runtime Environment Version 7 Update 25 に対応しました。
58	11.1a	WebOTX監視リソースが WebOTX V9.1 に対応しました。
59	11.1a	JVM監視リソースが WebOTX V9.1 に対応しました。
60	11.1a	WebLogic監視リソースで管理対象サーバも監視できるようになりました。
61	11.1a	グループリソース管理プロセスの起動時に、リソース一覧の取得処理でレジストリア クセスに失敗してもリトライするようにしました。

62	11.20	Windows Server 2012 R2 に対応しました。
63	11.21	NIC Link Up/Down 監視リソースが Windows Server 2012 のNICチーミング機能 に対応しました。
64	11.21	WebOTX監視リソースが WebOTX V9.2 に対応しました。
65	11.21	JVM監視リソースが WebOTX V9.2 に対応しました。
66	11.21	JVM監視リソースが異常検出時に障害原因別にコマンドを実行できるようになりました。
67	11.21	JVM監視リソースがJava VM起動時のオプションを設定できるようになりました。
68	11.21	アプリケーションリソースの非活性時、カスタム監視リソースの停止時にアプリケー ションを強制終了する機能を追加しました。
69	11.21	Weblogic監視リソースがWebLogicの監視で利用する webLogic.WLST コマンド へ渡すオプションを指定できるようになりました。
70	11.21	clpgrpコマンドに内部通信タイムアウトを指定するためのapitoオプションを追加しました。
71	11.21	clprscコマンドに内部通信タイムアウトを指定するためのapitoオプションを追加しました。
72	11.21	clpclコマンドに内部通信タイムアウトを指定するためのapitoオプションを追加しました。
73	11.21	オフライン版Builder が Java Runtime Environment Version 7 Update 40 と Java Runtime Environment Version 7 Update 51 に対応しました。
74	11.21	WebManagerとオンライン版Builder が Java Runtime Environment Version 7 Update 51 に対応しました。
75	11.21	ユーザ空間監視リソース (userw) を追加しました。
76	11.21	ログ収集で収集する項目(Windows ファイアウォールの設定、セキュリティのイベン トログ、タスクスケジューラの設定)を強化しました。
77	11.21	SQL Server監視リソースにおいて、[監視(固有)] タブでSQL Server 2012対応の ODBCドライバ「SQL Server Native Client 11.0」を選択できるようにしました。
78	11.30	AWS Elastic IPリソース(awseip)、AWS仮想IPリソース(awsvip)、AWS Elastic IP 監視リソース(awseipw)、AWS仮想IP監視リソース(awsvipw)、AWS AZ監視リソー ス(awsazw)を追加しました。
79	11.30	Azureプローブポートリソース (azurepp)、Azureプローブポート監視リソース (azureppw)、Azureロードバランス監視リソース(azurelbw)を追加しました。
80	11.30	AWS/Azure上でのCLUSTERPRO構築を容易にしました。
81	11.30	アプリケーションリソースの「常駐」モードで終了パスを実行できるようになりました。
82	11.30	サービスリソースの活性/非活性の完了を指定された時間待ち合わせる機能を追加 しました。
83	11.30	JVM監視リソースがJava 8に対応しました。
84	11.30	JVM監視リソースが、監視対象のJava VMのGC方式にG1 GCが指定されている環 境に対応しました。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.3 for Windows インストールガイド

85	11.30	PostgreSQL監視にてデータベースの初期化処理中/終了処理中は監視異常としないようにしました。
86	11.30	モニタリソースの監視タイムアウト発生時にリトライしない機能を追加しました。
87	11.30	モニタリソースの監視タイムアウト発生時に回復動作を実行しない機能を追加しまし た。
88	11.30	ログ収集で収集する項目(route printの結果、clpstatlocalの結果、自サーバのク ラスタの状態)を強化しました。
89	11.30	オンライン版Builder起動時に自動でライセンス情報を取得するようにしました。
90	11.30	PostgreSQL監視がPostgreSQL9.4 に対応しました。
91	11.31	ウイルス対策ソフトとの共存問題(CLUSTERPROの動作遅延)を回避する処理を追加しました。
92	11.30	PostgreSQL監視リソースがPowerGres on Windows 9.4 に対応しました。
93	11.32	Tuxedo監視リソースがOracle Tuxedo 12c(12.1.3) に対応しました。
94	11.32	WebOTX監視リソースがWebOTX V9.3に対応しました。
95	11.32	JVM監視リソースが以下に対応しました。 •WebOTX V9.3 •Apache Tomcat 8.0 •WebSAM SVF for PDF 9.2 •WebSAM Report Director Enterprise 9.2 •WebSAM Universal Connect/X 9.2
96	11.32	ネットワーク初期化完了待ち時間の既定値を0分から3分に変更しました。
97	11.32	CLUSTERPRO のプロセスの健全性を確認する機能を追加しました。
98	11.32	WebManager に不正なリクエストが要求された場合の脆弱性への対応を行いました。
99	11.32	以下の監視リソースの監視レベル2(update/selectでの監視)の監視処理を改善しま した。 •Oracle監視 •PostgreSQL監視 •SQL Server監視 •ODBC監視 •DB2監視
100	11.32	clpstatコマンドで表示できるクラスタ設定情報を拡張しました。
101	11.33	Windows Server 2016 に対応しました。
102	11.33	PostgreSQL監視リソースが PostgreSQL 9.5 に対応しました。
103	11.33	SQL Server監視リソースが SQL Server 2016 に対応しました。
104	11.33	Weblogic監視リソースが Oracle WebLogic Server 12c R2 (12.2.1) に対応しまし た。

105	11.33	JVM監視リソースが Oracle WebLogic Server 12c R2 (12.2.1) に対応しました。
106	11.33	Weblogic 監 視 リソースの追加コマンドオプションの既定値を "-Dwlst.offline.log=disable"から "-Dwlst.offline.log=disable -Duser.language=en_US"に変更しました。
107	11.33	clplogccコマンドにイベントログの種類を指定してログ収集する機能を追加しました。
108	11.33	Weblogic監視リソース、WebOTX監視リソースのポート番号に設定できる範囲を 1~65535 に拡張しました。
109	11.34	Windows Server 2016 のセキュアブートに対応しました。
110	11.34	PostgreSQL監視リソースが PostgreSQL 9.6 に対応しました。
111	11.34	DB2監視リソースが DB2 v11.1 に対応しました。
112	11.34	WebOTX監視リソースがWebOTX V9.4に対応しました。
113	11.34	WebSphere監視リソースが以下に対応しました。 ・WebSphere Application Server 8.5.5 ・WebSphere Application Server 9.0
114	11.34	JVM監視リソースが以下に対応しました。 ・Apache Tomcat 8.5 ・WebOTX V9.4
115	11.34	システム監視リソースの[オープンファイル数の最大値を1440回以上更新した場合] の既定値をオンからオフに変更しました。
116	11.34	監視タイムアウト発生時の挙動を改善しました。
117	11.34	ユーザ空間監視リソースの監視開始待ち時間の設定が可能になりました。
118	11.35	Oracle監視リソースがOracle 12c Release 2 (12.2)に対応しました。
119	11.35	WebOTX監視リソースがWebOTX V9.5に対応しました。
120	11.35	JVM監視リソースが以下に対応しました。 ・WebOTX V9.5
121	11.35	JVM監視リソースがJava 9に対応しました。
122	11.35	IP監視リソースの [Ping タイムアウト] の既定値を 1秒から 5秒に変更しました。
123	11.35	サイレントインストールに対応しました。
124	11.35	コマンドからのライセンス登録が可能になりました。
125	11.35	スクリプトリソースの起動/停止完了までの時間を短縮しました。
126	11.35	監視リソースの異常検出時の最終動作にリソース停止を追加しました。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.3 for Windows インストールガイド

第5章 補足事項

本章では、CLUSTERPRO X SingleServerSafeのインストール作業において、参考となる情報について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

•	CLUSTERPRO X SingleServerSafe のサービス一覧	66
•	ライセンスマネージャの使い方	67

CLUSTERPRO X SingleServerSafe のサービス一覧

CLUSTERPRO X SingleServerSafe は以下のシステムサービスで構成されます。

システム サービス名	説明
CLUSTERPRO	CLUSTERPRO本体
CLUSTERPRO Disk Agent	CLUSTERPRO X SingleServerSafe では使 用していません
CLUSTERPRO Event	イベントログ出力
CLUSTERPRO Java Resource Agent	Java Resource Agent
CLUSTERPRO Manager	WebManagerサーバ
CLUSTERPRO Old API Support	互換API処理
CLUSTERPRO Server	CLUSTERPROサーバ
CLUSTERPRO SingleServerSafe	SingleServerSafe処理
CLUSTERPRO System Resoruce Agent	System Resource Agent
CLUSTERPRO Transaction	通信処理
CLUSTERPRO Web Alert	アラート同期

ライセンスマネージャの使い方

スタートメニューに、CLUSTERPRO SingleServerSafe のメニューがあります。ここから、ライ センスマネージャを起動することができます。

ライセンス ファイルを指定してライセンスを登録するには

試用版ライセンスの場合、ライセンスシートの代わりに、ライセンスファイルを入手します。以下 に、ライセンス ファイルを指定してライセンスを登録する手順を示します。

注: Administrator 権限を持つアカウントで登録作業を行ってください。

1. [スタート] メニューの [プログラム] で、[CLUSTERPRO SingleServerSafe] の [ライセ ンス マネージャ] をクリックします。



2. [ライセンスマネージャ] ダイアログ ボックスが表示されます。[登録] をクリックします。



3. ライセンス登録方法の選択画面が表示されます。[ライセンスファイルから登録] をクリック します。

着ライセンス登録	_ 🗆 🗙
ライセンスの登録を行います。)次のいずれかの方法で、ライセンス登録を行ってください。	
ライセンス項目を入力して登録 登録する製品のライセンス項目を入力して登録を行う。	
ライセンスファイルから登録 登録する製品のライセンスファイルを選択して登録を行う。	
<戻る(B) 法へ(N) > :	終了

4. [ライセンスファイル指定] ダイアログ ボックスが表示されます。登録するライセンスファイ ルを指定して、[開く] をクリックします。

贈ライセンスファイル	指定					×
ファイルの場所(I):	퉬 System 32		- G	🖻 E	• 🔃 🤊	
名前 🔺		▼ 更新日時	_ •	種類		- 1▲
0411		2009/07/14	16:06	ファイル	フォルダー	
AdvancedInsta	illers	2009/07/14	12:20	ファイル	フォルダー	
appmgmt		2010/01/06	18:51	ファイル	フォルダー	
ar-SA		2009/07/14	12:20	ファイル	フォルダー	
BestPractices		2009/07/14	14:37	ファイル	フォルダー	
he-BG		2009/07/14	12:20	ファイル	フォルダー	-
4						<u> </u>
ファイル名(N):					開(((D)
ファイルの種類(T):	全てのファイル (**)			-	キャンオ	214
	🗌 読み取り専用ファイノ	として開く(R)				

5. ライセンス登録の確認メッセージが表示されます。[OK] をクリックします。



6. [終了] をクリックして、ライセンスマネージャを閉じます。

ライセンス登録を有効にするには、サーバを OS のシャットダウンコマンドで再起動してください。

登録されているライセンスを参照/削除するには

登録されているライセンスを参照および削除する手順を示します。

1. [スタート] メニューの [プログラム] で、[CLUSTERPRO SingleServerSafe] の [ライセ ンス マネージャ] をクリックします。

- 2. [ライセンスマネージャ] ダイアログ ボックスが表示されます。[参照/削除] をクリックします。
- 3. 登録されているライセンスが一覧表示されます。

£	第ライセンス参照/削除							
	製品名	+-	製品版/試用版	状態	シリアル番			
	CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.3 for Windows	4608014E-*******-*****AB7326AB	製品版	有効	ABC000000			
	CLUSTERPRO X Alert Service 3.3 for Windows	633D065A-************************	製品版	有効	ABC000000			
	•				▶			
				[
					キャンセル			

- 4. 削除する場合、削除するライセンスを選択して [削除] をクリックします。
- 5. 削除を確認するメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

ライセンス・	7차~ጛゃ 🗵	
・ ライセンス(DC9AC073-*******-****-05A21D7C)を削減		
	<u> </u>	

試用版ライセンスから正式ライセンスへの移行

試用版ライセンスで動作しているサーバに正式ライセンスを登録する際は、試用版ライセンス を削除せず、そのまま、正式ライセンスを追加します。ライセンス一覧表示を行うと、正式ライ センスと試用版ライセンスの両方が表示されますが、問題ありません。

第6章 注意制限事項

本章では、注意事項や既知の問題とその回避策について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

•	CLUSTERPRO X SingleServerSafe	インストール関係72	!

CLUSTERPRO X SingleServerSafe インストール関係

OS のインストールが完了した後、OS やディスクの設定を行うときに留意して頂きたいことです。

インストールパス配下のフォルダやファイルについて

インストールパス配下にあるフォルダやファイルは、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 以 外から操作(編集/作成/追加/削除など)しないでください。 CLUSTERPRO X SingleServerSafe 以外からフォルダやファイルを操作した場合の影響に ついてはサポート対象外とします。

ファイルシステムについて

OS をインストールするパーティションのファイルシステムは NTFS を使用してください。

WebManager について

CLUSTERPRO X SingleServerSafe のアップデートを行った場合、Webブラウザを一旦終 了し、Javaのキャッシュをクリアしてブラウザを再起動してください。

CLUSTERPRO Disk Agent サービスについて

CLUSTERPRO Disk Agent サービスは CLUSTERPRO X SingleServerSafe では使用していません。CLUSTERPRO Disk Agent サービスは起動しないでください。
CLUSTERPRO X SingleServerSafe アップデート時

クラスタとして運用を開始した後に CLUSTERPRO X SingleServerSafe をアップデートする際に留意して頂きたい事項です。

アップデートに伴う既定値の変更について

アップデートにより既定値が変更されるパラメータがあります。

- ◆ 下記 [対象バージョン] より前のバージョンから、[対象バージョン] またはそれ以降のバージョンへアップデートする場合、各パラメータの既定値が変更されます。
- ◆ アップデート後も [変更前の既定値] の設定を継続したい場合は、アップデート後に改めて その値に再設定してください。
- ◆ [変更前の既定値] 以外の値を設定していた場合、アップデート後もそれ以前の設定値が 継承されます。再設定の必要はありません。

パラメータ	対象バージョ ン	変更前の既定値	変更後の既定値
[クラスタプロパティ] – [タイムア ウト] – [ネットワーク初期化完了 待ち時間]	11.32	0分	3分
[Weblogic監視リソース] - [追加 コマンドオプション]	11.33	-Dwlst.offline.log =disable	-Dwlst.offline.log =disable -Duser.languag e=en_US
[システム監視リソース] - [起動し ているプロセスの監視条件] - [オープンファイル数の最大値を 1440回以上更新した場合]	11.34	オン	オフ
[IP監視リソース] - [監視 (固有) タブ] - [Ping タイムアウト]	11.35	1000ミリ秒	5000ミリ秒

付録

付録 A トラブルシューティング 付録 B 索引

付録 A

トラブルシューティング

CLUSTERPRO X SingleServerSafe のインストール時

動作及びメッセージ	原因	対処
セットアップに失敗しました。	該当のエラーコードを参照く ださい。	エラーコードに対する対処を 参照ください。
エラーコード:%x		
%x:エラーコード		
9.0未満がインストールされています。 アンインストール後に、再度インストールを 行ってください。	旧バージョンの CLUSTERPROがインス トールされています。	旧バージョンの CLUSTERPROをアンイン ストールして現バージョンの CLUSTERPROをインス トールしてください。
セットアップに失敗しました(%d)。 エラーコード:%x	該当のエラーコードの説明を 参照ください。	該当のエラーコードに対す る対処を参照ください。
再起動後インストールしてくたさい。 %d:内部コード		
%x:エラーコード		

ライセンス関連のトラブル シューティング

動作及びメッセージ	原因	対処
Builder で作成した構成情報を全サーバ に配信後、クラスタ シャットダウン リブー トを行うと、WebManager のアラート ビューに以下のメッセージが表示され、ク ラスタが停止した。	ライセンスを登録せずにク ラスタ シャットダウン リ ブートを実行したためで す。	サーバからライセンス登 録を実行してください。
「ライセンスが登録されていません。製品 名:%1」		
%1:製品名		
Builder で作成した構成情報を全サーバ に配信後、クラスタ シャットダウン リブー トを行うと、WebManager のアラート ビューに以下のメッセージが表示されてい たが、クラスタは、正常に動作している。	ライセンスが不足していま す。	販売元からライセンスを入 手し、ライセンスを登録し てください。
「ライセンスが不足しています。登録ライセ ンス数は%1です。不足ライセンス数は%2 です。製品名:%3」		
%1:ライセンス登録数 %2:ライセンス不足数 %3:製品名		
試用版ライセンスでクラスタ運用中に以下 のメッセージが出力され、クラスタが停止 した。	ライセンスの有効期間を 超えています。	販売元へ試用版ライセン スの延長を申請するか、 製品版ライセンスを入手
「試用期間(%1/%2/%3)が切れています。 製品名:(%4)」		し、ライセンスを登録してく ださい。
%1:試用終了年 %2:試用終了月 %3:試用終了日 %4:製品名		

付録 B

索引

В

Builderの起動, 43, 44

С

CLUSTERPRO X SingleServerSafe, 13, 14

D

Disk Agent サービス, 74

J

JVM監視, 23

0

OS, 16

S

SNMP 連携機能を手動で設定, 34, 39, 45

W

WebManager, 74

あ

アップグレード, 56 アンインストール, 51

い

インストール, 34, 49

お

オフライン版CLUSTERPRO Builderのアンインス トール, 54 オフライン版CLUSTERPRO Builderのインストール, 41

き

機能強化, 59

さ

サービス一覧,68 再インストール,55 サイレントモードでインストール,39

せ

正式ライセンスへの移行,71

そ

ソフトウェア構成,15

لح

動作環境, 13, 16 トラブルシューティング, 79

ね

ネットワーク設定の確認, 31

は

バージョンアップ,48 ハードウェア構成後の設定,31 パワーセービング機能のオフ,32

ふ

ファイアウォールの設定の確認, 31 ファイルシステム, 74

6

ライセンス ファイル,69 ライセンスの参照/削除,70